

学 位 論 文 要 旨

氏 名 榊 原 範 久

題 目 批判的思考を育成する思考ツールと学習方略モデルの開発

知識基盤社会の進展に対応して、汎用的能力としての「批判的思考」の重要性が高まっている。世界各国が批判的思考を重要なコンピテンシーと位置づけ、小学校段階から育成を図るカリキュラムを展開している。我が国においても、批判的思考を育成することの重要性はさまざまな分野で強調されるようになってきているが、義務教育の学校現場における批判的思考を育成する授業の開発および実践は十分とは言えず、課題となっている。

そこで本研究では、我が国の義務教育段階の小中学生を対象として批判的思考の育成を目指す。批判的思考の先行研究を整理し、批判的思考の能力とその態度を育成する思考ツールや、学習環境を含めた学習方略モデルの開発を行い、それを評価することを目的とする。本研究は5つの章から構成され、それぞれの章の内容については以下の通りである。

まず、第1章では、批判的思考が求められる社会的背景や批判的思考研究の系譜についてまとめ、批判的思考のしくみの検討と定義を行った。また、国内外の批判的思考の測定方法や実践方法を先行研究から例示し、現在の研究の状況を明らかにした。また、学習状況の可視化に関わる研究について、先行研究をまとめ、特に本研究に関わりの深いComputer Supported collaborative Learning（コンピュータに支援された協調学習、以下CSCL）について重点的にまとめた。さらに学習方略に関わる先行研究についても調査を行った。学習方略の研究については、6つのカテゴリーに分類されるとし、その中の「外的リソース活用法略」に該当する、他者と相互交流して学ぶ「協調学習」に着目して先行研究の成果と課題をまとめた。

次に第2章では、小中学校における批判的思考に関する教育の問題の所在を明らかにし、社会科において、批判的思考を育成することを目的とする思考ツール「四面思考シート」、「4Cチャート」を開発し、それをを用いて実践した調査についてまとめた。四面思考シートの活用によって、学習者は、二者択一の意思決定場面において、選択肢のメリット・デメリットを検討し、客観性を保ちながら多面的に思考し意見をまとめる様子が明らかになった。さらに四面思考シートを記述した後に話し合い活動を行うことで、立場と理由を明確に示し、客観的で多面性のある意見が表出される傾向がある。また、4Cチャートの活用によって、「①明確化（見つける）→②推論の土台の検討（検討）→③根拠を繋いだ推論（繋げる）→④意思決定（結論づける）」という思考プロセスを設定して資料の読み取りを行ったところ、「個人内思考の可視化」、つまり学習者の頭の中にある考えを紙面上に整理して可視化する事によって、批判的思考の能力と態度が育成されることが明らかになった。

そして、第3章では、可視化の枠組みについて検討し、個人が思考していることを全体へ分かりやすく可視化する学習者の周辺の可視化する学習環境と教室全体を可視化する学習環境を設定することにより、学習者にどのような効果を与えるのかについて検証した。全体を可視化するシステムとしてCSCLを用いている。調査では、ディベート学習を設定し、ディベートに参観する聞き手にワークシートを使用した場合と、CSCLを導入したタブレットを使用した場合を比較検証した。その結果、周辺の学習状況や全体の学習状況を可視化することにより、他者から有効な情報を参照し、自分の意見と他者の意見を比較し、反省的に吟味する学習に繋がった。また、可視化の枠組みのサイズの存在についても言及し、その知見の整理の必要性について検討した。

さらに第4章では、学習状況の可視化の枠組みと批判的思考の関係性について言及した。その結果、学習状況の可視化を三つの段階「個人内思考の可視化」「周辺の可視化」「全体の可視化」に分けて図式化した(図4-1, p.98)。それぞれの枠組みによって使用するツールや効果は異なる。そして、実践の検証を通して、小学生の批判的思考を育成していくためには、学習環境の面として、教室における周辺や全体の学習状況が分かるように可視化する環境設定と、学習方略の面として、対話的な相互作用を中心とした学習を授業内にデザインすることの両方が必要であることが明らかになった。自分の思考をメタ認知して、内省し、コントロールして、推論過程を意識的に吟味することにつながり、批判的思考が表出することが明らかになった。

第5章では、これまでの成果と課題をまとめ、小中学校における批判的思考の育成モデルの概念図をまとめた。また、本研究の学校現場での汎用性や、教育実践への示唆と展望についてもまとめた。

以上を通して、小中学生を対象に、批判的思考の能力とその態度を育成する思考ツールや、学習環境を含めた学習方略モデルの開発を行い、それを用いた実践研究を評価した。本研究の成果は、知識基盤社会において重要視される資質・能力の一つである批判的思考を、小中学校段階で育成するための理論と実践方法を明らかにした点である。小中学校段階で批判的思考の能力や態度を育成していくには、お互いの学習状況を可視化した学習環境に加え、対話的な学習を設定し、さらに思考プロセスを段階的に行うことが重要であることを述べている。